

## VISTA 5 ユーザーレポート

独立行政法人日本芸術文化振興会 国立劇場 様

VISTA 5



### 録音室を VISTA 5 で更新



独立行政法人日本芸術文化振興会  
国立劇場 調査養成部

東京都千代田区隼町にある国立劇場には、大劇場、小劇場、演芸場の3つの舞台があり、国立劇場主催公演は、平成23年度延535日（仕込み・稽古等を除く）を予定しており、ほかに、邦楽や舞踊などに舞台を貸し出しています。このうち、国立劇場主催公演のほとんどを昭和41年11月の開場以来、映像や音声、スチール写真によって記録されています。劇場では、出演者の台詞や演奏を客席へスピーカーで流すと共に公演記録用として収録が行なわれています。劇場の公演は、本番が1～3日程度の短期公演と4日以上長期公演に分けることができます。公演では、稽古のときにテスト収録を行った後に本番収録を行います。演芸場の公演では、稽古が行なわれないので本番一発勝負となります。長期公



演では、事前に見下見を十分に行いテスト収録、本番収録へと進みます。また、収録された映像と音声は、皆様にも視聴していただけます。（視聴をご希望の方は、国立劇場視聴室までお問い合わせください。）公演記録で使用する機器は、耐用年数によることなく故障などにより使用できなくなるまで使い続けています。このため、公演記録の機器は、おおむね耐用年数の2倍の期間使用しています。今回更新したミキサー卓も平成12年に導入後11年使用しており、近年故障が多く発生し、収録直前に起きた故障で基盤を交換するなど、あやうく収録が出来なくなることもありました。このような状況からミキサーを更新することにし、入札の準備に入りました。入札は政府調達（いわゆる「国際入札」）のため、約1年前から準備を開始しました。今までのミキサーは、ヘッドアンプ1台が64チャンネルまで使用できましたが、数年に一度はそれを超えるチャンネル数を使う公演があるため、ヘッドアンプを1台増設して記録を収録していました。また、ミキサー室はそれほど広くないため、ミキサーの大きさも限られます。今まで使用していたミキサーの機能が使えることが最低の条件で、さらに工事ができる日数や時間に制限があり、大規模な工事や騒音を伴う工事が不可能だったため、新しいミキサーでも使用できる敷設済の回線などをなるべく使うような仕

様にしました。また、今まで2台だったヘッドアンプを3台にし、大劇場、小劇場、演芸場にそれぞれ設置することになりました。特に、小劇場に設置するヘッドアンプは旧音響効果室に置いていましたが、客席数等の関係から、皇族や要人が来場されたときに観劇される場所となったため、皇族や要人がご観劇になるときは、警備上の理由とヘッドアンプからファンの回転音が出るため、旧音響効果室にヘッドアンプが置けなくなり、毎回、舞台の袖から100m以上のケーブルをミキサー室まで敷設して収録を行いました。このようなケーブル敷設の作業を行うことなく収録ができるように、ヘッドアンプの小型化、固定化、消音化を実現する必要性に迫られました。以上の条件の下、入札参加者が2社あり、その結果スチューダーのVista 5に決定しました。今回の入札でスチューダー・ジャパンブロードキャスト（SJB）は、ヒビノ（株）と共同で納入までの一連の作業を行いました。より機能が強化されたVista 5の納入に際して、品川にあるSJB社に伺い納入前にレクチャーを受け、その間も、どのように効率よく使うことができるかを共同で研究し、Vista 5の機能が十分に発揮できるように改善が図られました。また、納入後の訓練も数回行っただけで、納入後1週間ほどで公演の収録を行ないましたが、支障なく公演収録を行うことが出来ました。